

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

組織	文化振興課
職	課長
氏名	池田 誠

組織の使命・役割	何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か
本県は藩政期から受け継がれてきた層の厚い伝統工芸の集積があるほか、能楽や邦楽をはじめ、茶道や華道に代表される優れた伝統文化を培ってきた。これらを継承、発展させていく一方でオーケストラ・アンサンブル金沢の運営やラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭、ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭の開催など新たな文化創造の取り組みや、諸外国との国際文化交流も行っている。文化の担い手は、県民ひとりひとりであるが、「個性を活かした文化と学術の地域づくり」を実現するため、文化施設の基盤整備や文化振興のための環境整備などの条件整備を行っていく必要がある。	

組織の目標	使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か
(定性的目標)	何をどのような状態にしたいか

- ①兼六園周辺文化の森活性化の推進
- ②個性的な文化創造社会の形成
- ③音楽文化の創造・発信・交流の促進
- ④伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実

(定量的目標)	具体的な指標、目標値を設定する				
目標とする成果指標	現行値	年(度)	目標値	年(度)	目標値の設定根拠(他県との比較など)
①兼六園周辺文化施設入館者数(5施設)※	712,928	H25 年度	643,000	H26 年度	各館の独自企画及び連携強化による誘客対策等により、過去平均実績並以上でかつ中期経営目標の数値とする。
②芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	11,609	H25 年度	13,000	H26 年度	芸術鑑賞事業等の広報に力を入れるほか、内容を充実などで過去平均実績並以上の目標とする。
③音楽堂入場者数	250,272	H25 年度	256,000	H26 年度	公演内容を充実することにより、過去平均実績並以上を目標とする。
④音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	111,144	H25 年度	115,000	H26 年度	各施設とも減少傾向にある入館者数を、公演内容の充実、営業活動による貸館の利用促進により、入場者数を過去平均実績並以上の目標とする。

※兼六園周辺文化施設: 県立美術館、県立歴史博物館(休館中)、県立能楽堂、藩老本多蔵品館、石川四高記念文化交流館



26年度に重点的に取り組むべき課題	左記の具体的な内容を記載する
①、②、③、④ 文化振興条例(仮称)の制定及び文化振興指針の見直し	県の文化振興施策の拠り所となる「文化振興条例(仮称)」の制定や文化振興指針の見直しに向けて、昨年実施した県民意識調査の結果や、現行の指針の検証結果を踏まえ、民間有識者等で構成する「検討会議」等を立ち上げ、条例の制定などについて具体的な検討を行う。
①、④ 兼六園周辺文化施設の活性化	美術館、歴史博物館が兼六園周辺文化施設の中核として広く親しまれるよう魅力ある企画展を開催するほか、能楽堂では、優れた古典芸能を鑑賞する機会を提供する「観能のタベ」を開催する。さらには、兼六園・金沢城公園のイベントと連携し、「兼六園周辺文化の森ミュージアムウィーク」を拡充し、新幹線開業時期においても、イベントを集中させるなど、一層の賑わい創出に向けた取り組みを進める。 また、設備等の老朽化や入館者数が減少傾向にある歴史博物館について、平成27年春のリニューアルオープンに向け、重要文化財としての建物の魅力を活かしながら、フリーゾーンの設定や展示の全面見直しを行うなど、より多くの県民や観光客の皆様を訪れていただける施設となるよう今年度も工事を推進していく。
② 表現・鑑賞機会の充実	子どもたちを対象に古典芸能、オーケストラや演劇など、優れた舞台芸術に触れる機会を提供する鑑賞教室を開催するほか、本県の優れた文化・芸術を県内外に発信するビエンナーレいしかわ秋の芸術祭を開催するなど、育成の場、発表の場の機会を設けることにより、県民の文化理解の向上と活性化を図る。
③ 音楽文化の創造・発信	音楽堂を核として、オーケストラ・アンサンブル金沢による公演や国内外の一流の演奏家の招へい、地元・若手音楽家の支援等を行い音楽ファンの拡大を図るとともに、ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭を引き続き開催し、市民参加型のプログラムや幼児を同伴できるプログラムを組み込むなど、県民挙げての音楽祭に育てていく。